

医学部キャリア形成プログラムの挑戦！ —輝く未来を拓くために—



医学部進路指導部長 佐伯 覚

今日の医学・医療の発展、災害や新興感染症の流行などに伴う社会情勢の変化から、産業医を含めた医師の役割や働き方も大きな変化を余儀なくされています。本学の卒業生である自分自身を振り返ってみても、当時考えていた将来の医師像とは大きく変わってきたことを実感しています。キャリアを重ねていく過程でどのような進路を選択するか、その際、私自身を含め卒業生の多くは上司、先輩や同僚など様々な方に相談し、アドバイスや指導を受けてきました。このようなとき、本学の強みは、学生時代に築いた同級生、先輩後輩、教職員などとの強い結びつきで、卒業後も相互に相談支援できる関係にあることです。同窓会、アリスの会、産業医学推進研究会などの活動をみてもよくわかります。

しかし、コロナ禍になって痛感するのは、オンライン講義やクラブ活動停止などの影響により、在学生同士の交流が極めて少なくなり、人間関係が希薄化していることです。多くの在学生はネット情報を鵜呑みにして、実際に自分でみて、聞いて判断をすることが少なくなっており、卒業生同士の交流にうまく関わっていけるのか心配な面があります。

本学医学部卒業生は、修学資金に係るルール、大学の産業医学卒業後修練課程に係るルールを満たしたうえで、更に、新専門医制度のルールに従って研修を進めなければなりません。以前は想定しなかった事項も増え、卒業後にも十分相談や支援を得られる必要性があります。そこで、医学部では令和4年度から「キャリア形成プログラム」を開始しました。このプログラムは、医学部卒業後、産業医学卒業後修練課程を経て、修学資金返還

免除となり、その後、医師としての各々のライフプラン（専属産業医・臨床専門医・行政機関医師・健診機関医師・開業医など）を実現することを支援する網羅的なシステムです。本プログラムの詳細（以下のQRコードからご参照ください）は、紙面の関係で触れませんが、卒業生と所属講座等が多様な段階で上記のルールに適合しているかをチェックできる利点があります。最大の利点は、自身のキャリア形成を考えるうえで、複数の相談窓口を活用することができることです。誤った情報に左右されるのではなく、本人が所属する各講座等と相談しながら、必要に応じて進路指導部（キャリア支援課）、医学部キャリア形成プログラム委員会等の各委員会、産業医学振興財団とも相談対応が可能になることです。本プログラムは、令和4年度以降の入学生は参加を必須とし、令和3年度以前の入学生は参加を勧奨しています。本プログラムは、一部誤った情報が伝わっているとも聞き及んでおります。正確な内容は、ぜひキャリア支援課（sinro@mbox.pub.uoeh-u.ac.jp）にお問い合わせください。

キャリア形成プログラムの概要を、こちらから確認できます。

